

2025年1月19日（顕現後第2主日・主イエス洗礼の日、C年）

牧師メッセージ

「最初のしるし」

（ヨハネによる福音書2:1-11）

司祭ヨセフ太田信三

当時の婚宴は数日に渡り、来客をもてなすのが新郎の大事な務めでした。ぶどう酒が尽きてしまつては、お祝いも興ざめ、新郎は恥をかくこととなります。そのぶどう酒が無くなりそうなことに気づいた母マリアはイエスに状況の打開を願いました。しかし、イエスはこの願いを断ります。なぜイエスは断ったのでしょうか。それは、イエスのご自分のしたいことをするのではなく、神の御心に従う方だからです。この時も、母マリアが願ったからと言って、イエスのご自分で「はい分かりました」とは言いません。それをするかどうかを決めるのは神だからです。

イエスは、十字架上で御自分が栄光をお受けになるその時まで、徹底してご自分の栄光を求めではなく、神の栄光のために行動します。自分が褒めそやされることよりも、神のことを皆が称えるように。自分のためにすることは虚しいけれど、神のためにすることは必ず良い実を結ぶことをイエスは知っています。だからこそ、十字架の死に至るまで、徹底的に神の意志に従いました。イエスは毎日、社会から阻害されている人、人としての扱いを受けていない人のところへ出かけて行き、共にいました。それが神の御心だったからです。しかし、それは危険が伴うことでした。結果、イエスご自身が阻害され、人として扱われず、十字架にかけられるのです。イエスのご自分の危険を顧みるよりも、神の思いを優先させたのです。神はそのイエスを復活させました。なぜなら神は、イエスのように神の思いに従い、神が喜ぶことを求めて生きる人間を、必ず生かす方だからです。神に従う命に、神はこの世のどんなものよりも素晴らしい栄光をくださる。このことがイエスの死と復活によってわたしたちに明らかにされたことです。

今日の福音の一番始めには「三日目に」とあります。ここにイエスの死と「三日目」の復活が暗示されています。ガリラヤのカナでの「最初のしるし」は、イエスの死と復活によって示される神の有り様が明らかにされた出来事です。わたしたちの信じる神は、神の栄光を求め、主に従う者に必ず善いものを与えてくださいます。